

大城ひかるのベトナム



通信

-25-

シンチャオ (Xin chào) おきなわ



周りを山に囲まれ水田が広がるラオス国境の小さな村ア・ロワン村 (筆者撮影)

「ここがホーチミンルートですよ」――助手席に座っていたガイドさんが後ろを振り返ってにこやかに話しかけて来たとき、私はちょうど車酔いの予兆と戦っていたところでした。フエから南西に伸びる国道49号は最

初のうちこそベトナムのどこにでもある田舎道という感じでしたが、軽いアップダウンを繰り返すうち、だんだん民家は少なくなり、そのうち完全に山道となっていくました。標高が上がるにつれ、上ったかと思つと下り、下ったかと思つと上り、右へカーブしたかと思つと、今度は左へ大きく曲がるといった具合で、滅多に車酔いをしない私も、いよいよ胃のあたりこみ上げるものを感じ始めていた時です。今回はフエ郊外のア・ロイ県に住む少数民族を訪ねる旅。ここでホーチミンルートに出会うとは意外でしたので、グーグルマップを見てみると、何と山の向こうはもうラオスです。この辺りは高いところで標高800mですが、うっすらと遠くに見える高い山々が

少数民族とホーチミンルート

ベトナムとラオスを隔てるチュオンソン山脈と聞くと、まだ見ぬ国への憧れで一気に気分が高揚します。島国で育つと、国が陸続きというのは新鮮に感じるものです。ご承知の通り、ホーチミンルートはベトナム戦争当時、北ベトナム(ベトナム民主共和国)から南ベトナム(ベトナム共和国)へ軍事物資を運ぶための補給路です。そのころベトナムは北緯17度で南北に分断され、軍事境界線の南北それぞれ2キロは非武装地帯として厳しく監視されていたため、北ベトナムはラオス、カンボジアを通じて南ベトナムに至るルートを切り拓いたのです。ガイドによると、国道49号の一部がかつてのホーチミンルートとのことでした。メインのホーチミンルートはチュオンソン

ルートとも呼ばれる通り、山脈の向こうのラオス側を通ることが多いので、ここは支線なのでしょう。これまでホーチミンルートの話は何度も聞いてきました。建設はベトナム戦争が終結するまで16年間続いたこと、アメリカ軍の偵察を逃れるため、あえて険しい山中を通ること、兵士だけでなく山岳民族も建設に駆り出されたこと、ナタやスコップなど限られた資材しかない中で密林を切り拓き山を削って建設したこと――きれいに舗装された今では、写真で見ると当時の面影は全くありません。わずかな時間でも車酔いを起こしそうな急峻な道ですから、もっと

戦時中のホーチミンルート



これら多くの人命が失われたとのことでした。国道49号から国道14号に入ると平坦な道となり、30分ほどで目指すタオイ族の村に到着しました。人口わずか340人。周りを山に囲まれ、水田が広がる美しい村です。いきなり訪ねて行ったにもかかわらず、タオイ族の女性リナさんが村を案内し昼ご飯まで御馳走してくれたのですが、この村人はホーチミンルート建設のためラオスから連れてこられたと聞いて心が少し痛くなりました。続きはまた次号で。